

JCHO熊本総合病院 が担う役割について

平成30年3月12日 JCHO熊本総合病院

(JCHO : 独立行政法人地域医療機能推進機構)

1 現状と課題

1) 理念、基本方針、私たちの信念

理念：

患者様に満足される**最新の医療**を情熱を持って実践する

基本方針：

- ・質の高い最新の医療を提供します
- ・**自分自身がかかりたい医療**を行います
- ・治療と癒しに情熱を燃やします

私たちの信念：

医療とともに、**公に一肌脱ぎます**

1 現状と課題

2) 診療実績

- 届出入院基本料 [一般病棟入院基本料 10対1入院基本料]

	H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12
病床稼働率(%)	95.6	92.8	98.3	98.6	94.8	94.5
平均在院日数(日)	16.0	15.9	16.3	16.8	16.3	16.8
1日平均入院患者数(人)	327.0	317.5	336.1	337.3	326.0	325.0
1日平均外来患者数(人)	553.4	521.2	550.8	526.6	531.2	545.9
救急車搬送件数(台)	269	267	232	252	245	266

1 現状と課題

3) 職員数

- 平成30年2月1日現在
- 常勤職員及び非常勤職員

職種	人数	職種	人数	職種	人数
医師数	65	理学療法士	8	社会福祉士	5
(研修医)	(5)	作業療法士	3	事務員	52
薬剤師	15	言語聴覚士	2	技能員	18
臨床検査技師	22	視能訓練士	2	療養介助員	64
診療放射線技師	17	保健師	7		
管理栄養士	6	看護師	321		
臨床工学士	11	准看護師	10	合計	628

1 現状と課題

4) 特徴

高度急性期、急性期医療を中心に、県南における二次救急医療を担っている。

熊本県指定がん診療連携拠点病院として、がんセンターは、先進的ながん診断の総合戦略を駆使し、高度ながん治療を行っている。

県南で唯一の腎センター、糖尿病センター、血液内科において専門的治療を行っている。

脳卒中センターでは、県南における脳外科手術の拠点病院として、また、脳梗塞に対するt-PAなどの神経内科的治療も充実している。

循環器センターでは、最新の診断機器を駆使し、循環器内科と心臓血管外科のハートチームとして質の高い医療を提供している。

医療だけでなく八代のまちづくりで地方創生にも貢献

1 現状と課題

5) 政策医療

5 疾病

- ・がん : 熊本県指定がん診療連携拠点病院
- ・脳卒中 : 熊本県脳卒中急性期拠点病院
- ・急性心筋梗塞 : 熊本県急性心筋梗塞急性期拠点病院
- ・糖尿病 : 熊本県糖尿病認定教育施設

5 事業

- ・救急医療 : 二次救急医療
- ・災害医療 : 災害拠点支援病院
- ・へき地医療 : 医師派遣

JCHOの使命

- ・地域医療のみならず地域包括ケアの推進
- ・総合医を含めた人材の育成

1 現状と課題

6) 他機関との連携

地域医療支援病院に指定されており、病診連携会等を開催し、**医師会の先生方とも連携強化**を図っている。

特別な専門的治療が必要な患者は**熊本大学病院**等と連携している。

1 現状と課題

7) 課題

高度急性期・急性期及び救急医療提供のため更なる**施設・設備の充実**と平成30年度から**看護配置7対1**への変更

当院は、**JCHO総合診療重点病院**となっており、**総合医の育成及び医師をはじめとする看護師等の人材確保と人材育成**

地域医療支援病院として、地域医療推進のため**紹介率、逆紹介率、救急患者受け入れに力を入れ、JCHO医療政策でもある、地域医療ならびに地域包括ケアシステムの構築と推進**

2 今後の方針

1) 八代医療圏において、殆んどの患者の治療が八代医療圏で完結しており、特別な専門的治療が必要な場合は熊本大学病院に相談している。

従って、当院は**公的急性期病院としての役割を果たすため**、地域に必要な医療提供体制の確保を図るとともに安定した経営のもと、更なる急性期医療等を提供する重要な役割を継続的に担っていく。

2) その急性期医療の充実の一端として、来年度**ロボット手術(ダヴィンチ)の導入**を図る。

3) 急性期医療や救急医療を支えるため、医師・看護師等の医療スタッフの確保にも努めており、特に**平成30年4月の看護配置7対1**に向けて既に人的整備を終了している。

2 今後の方針

- 4) 医師、看護師ならびに医療技師の認定・専門資格取得を人材育成の一端として推進し、研修医の受け入れも積極的に行いながら、**JCHO医療政策の使命の1つである教育・総合医療育成の拠点病院**として地域医療に貢献する。
- 5) また、在宅医療・看護・介護に関する研修会の開催等により、**地域の医療介護人材の育成**に寄与する。
- 6) 安心して住める・プライドも持てる・心地よい日常が完結する**八代のまちづくり**で**地方創生**にもさらに貢献する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	54	54	54
急性期	286	286	286
回復期			
慢性期			
その他(感染症)	4	4	4
合計	344	344 +	344 +

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

平成28年度の熊本地震による八代市立病院の廃止に伴い、その病床移譲によって、**八代市から要請を受けた機能を引き継ぎ**、地域医療推進のため地域の医療機関等との連携を強化し**地域包括ケアシステム**の構築を推進する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (30年2月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、腫瘍内科、感染症内科、アレルギー疾患内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、胃腸内科、内視鏡内科、神経内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科、内分泌内科、代謝内科、脂質代謝内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、腫瘍外科、肝臓外科、脾臓外科、胆のう外科、食道外科、胃外科、大腸外科、内視鏡外科、疼痛緩和外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、放射線科、放射線治療科、病理診断科、アレルギー科、麻酔科	全科	
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(30年 2月時点)	2025年
病床稼働率	95.4%(10対1)	93%(7対1)
紹介率	82.3%	85.0%
逆紹介率	77.0%	85.0%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

看護配置 7:1 のための継続的な看護師確保と重症度、医療・看護必要度、在院日数、在宅復帰率等の要件の維持

地域包括ケアシステムの構築と推進

紹介率、逆紹介率アップに向けての更なる病病・病診連携の強化

公的機関を核とするストック型まちづくり



まちづくりのためのストック型社会

ストック型社会

～価値あるレガシーを次世代へ残す～



1900年のワシントンDC



1900

1980年のワシントンDC

